

佐渡米通信

こめへる

2022年 10月号

発行日:2022年10月

編集人:佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課 駒形(葵)
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

令和4年産米 稲刈り

令和4年産米の収穫が9月初旬から始まりました。今年は、8月上旬まで高温が続き、早生品種「こしいぶき」の登熟が進んだことで収穫時期が早まる傾向となりました。

コシヒカリは出穂期が早めでしたが、お盆以降に気温が低くなったため登熟が緩やかな傾向でした。JA佐渡管内での収穫作業は9月中旬にピークを迎え、10月まで続く見込みです。



稲刈りの様子



収穫適期を迎えたコシヒカリ

水稲刈取り指導会

9/5～9/9までの間、JA佐渡管内約70箇所で行われました。参加者は自身のほ場の稲を持ち寄り、収穫時期の指標となる籾の黄化状態の確認を行いました。

指導会では品質や食味が最もよくなる適期に刈取れるよう刈取りのタイミングを確認しました。



水稲指導会の様子

指導会の様子をこちらからご覧いただけます!



佐渡の米農家さんにインタビュー!!

畑野地区の中川裕二さん(48歳)、美保子さん(48歳)ご夫婦にインタビューをしました。中川さんご夫婦は朱鷺と暮らす郷認証米コシヒカリ、こしいぶきを主に栽培され、今年から新たに新之助も加わり計14町歩を栽培されています。



こまめに田んぼに通い二人三脚で管理されたコシヒカリと中川裕二さん、美保子さん

中川さんご夫婦にお会いして一番印象に残ったのは、品質向上に対する熱意でした。認証制度の制約の中で出来る工夫について、ご夫婦でアイデアを出し合いさまざまなチャレンジをされているそうです。仕事の質を第一に優先する中で「ムリ・ムダ・ムラ」がないかを常に考え合い、取り組んでいることが伺えました。

根拠に基づいたデータにも関心があり、食味分析を積極的に行って栽培方法の工夫に繋げていきたいと今年の仕上がりを楽しみにされていました。また、お米を食べてくれた方の反応も重要な指標となるため大切にしているそうです。周りの方からの力も借りながら、今後も夫婦二人で安心して食べて頂けるお米作りをしていきたいとのことでした。



ご夫婦で収穫前の最後の草刈りをする様子



水稲栽培技術が良質な飼料用稲栽培にも活用

佐渡島は和牛子牛の生産地域であり、自給飼料の確保のため発酵粗飼料用稲の栽培を行っています。平成20年頃まで牛の飼料はほとんどを輸入に頼っていましたが、既存の水稲栽培技術を有効に活用して作付け面積を拡大し利用に繋げてきました。

今月には5年に1度の“和牛のオリンピック”と呼ばれる畜産業界最大イベント「第12回全国和牛能力共進会(鹿児島全共)」が開催されます。今回新潟県代表に自給飼料で育ったJA佐渡管内の岡崎さんが管理する「しまふく」が選ばれ出場することになっています。良質な飼料用稲からも、水稲栽培技術の水準について伺い知ることが出来ます。

／ がんばれ!しまふく!! ／



新潟県代表のしまふく(雌)



専用の収穫機による飼料用稲の刈取り作業

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにつき」で佐渡の情報が見られます。
<https://www.facebook.com/jasadotanbo>

